

PASSION

熱い本
集めました



ちょっと…コラム～
こちら編集部

ひたすら大真面目に…

東京藝大の学生さんたちは、ひたむきに作品や音楽と向き合っていて、その熱心さはちょっと混沌を極めています。

だけど、それぞれが大真面目に取り組む姿や、作品や音楽に対する思いを感じると、とっても情熱溢れる学校だと思えます。

ここまで飛びぬけた人たちの集まる大学は、そうそうないのでは…！？

なんだか良いなあ、と最後に思えた一冊です。

みんなのやりたいことを見つけるヒントが見つかるかも…？



『最後の秘境 東京藝大』
二宮 敦人／著 新潮社



文芸部復活へ！

『復活！虹北学園文芸部』

はやみね かおる／作，佐藤 友生／絵 講談社

中学生になったら絶対に文芸部に入る！と決めていたのに，入学してみたら文芸部はもう廃部？部員が足りない？

それなら，人数集めて作ればいい！文芸部員になりたいマインが，文芸部復活を目指して奮闘する締め切りまでの物語。



『キケン』

有川 浩／著 新潮社

成南電気工科大学のサークル「機械制御研究部」，通称「キケン」。

そこで活動する理系男子のとてつもない熱量を感じて，クスツと来ること間違いなし。

とっても危険なことばかりしているけれど，生き生きとやりたいことをしている彼らの姿がとっても魅力的です。

こんな青春送りたい…！と憧れるかも。



熱い！理系男子

『バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎／著 光文社新書

お腹を空かせたバッタは，緑色なら服でも食べると知った日から，著者の夢は「バッタに食われること」。

けれど，日本でバッタを研究しているだけでは，バッタに食われることも，食べていくこともできない。そこで著者は，バッタを追い求めてアフリカへ！

バッタに対する著者の熱い思いが伝わってくる一冊です。



バッタに食べられたい！？



『ハジメテヒラク』
こまつ あやこ／著 講談社

競馬の実況アナウンサーの従姉妹に憧れて心の声で実況中継することが趣味のあみは、中学校で「生け花部」に入部することに。こっそり自分の生け花を褒めてみたり、友達のことを考えたりと頭の中は大忙し。テンポのいい文章と、文化祭でのパフォーマンスに注目の1冊。



『一瞬の風になれ』第1部～第3部
佐藤 多佳子／著 講談社

中学まで続けてきたサッカーに限界を感じた新二は、特にサッカーが強いわけではない近所の公立高校に進んだ。スポーツテストで走ることに何か運命みたいなものを感じた新二は、幼馴染の連と一緒に陸上部に入る。短距離走に魅せられた高校生たちの、熱く、爽やかな青春ストーリー。



『ケーキ王子の名推理(スペシャリテ)』
七月 隆文／著 新潮社 既刊1～5巻

ケーキが大好きな未羽は、美味しいケーキを食べると食レポが止まらない。同級生の颯人は、世界一のパティシエを目指して修行中。ケーキが縁で知り合った2人は、大会出場、バイトにイベントに全力投球！
読んだらケーキが食べたくなる美味しい本。



『包帯クラブ』
天童 荒太／著 筑摩書房

両親の離婚をきっかけに、なんとなく投げやりな生活を送るワラは、訪れた病院の屋上で出逢ったディノに、ひとつの計画を持ちかけられた。それは、「街のあちこちに包帯を巻く」というものでー。
傷ついた少年少女たちの、戦わない救済の記録。



『リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ』
こまつ あやこ／著 講談社

沙弥は、マレーシアからの帰国子女。日本の中学校に順応しようと悪戦苦闘中のある日、怖いと噂の先輩に呼び出されてしまう。てっきり怒られるのかと思っていたら、意外なことに誘われたのは短歌の「吟行」。五・七・五・七・七のリズムが織りなす、新鮮で軽やかな異文化交流ストーリー。



『少年少女飛行倶楽部』
加納 朋子／著 文藝春秋

中学一年生の海月が入学早々幼馴染に連れていかれたのは、“飛行クラブ”という未認可の部活動。物に頼らず、自分の力だけで空を飛ぶことを目的としたアヤシイ部活の創始者は、これまたアヤシイ「カミサマ」部長で…。なりゆきで入部してしまった海月は、果たして本当に空が飛べるのか？底抜けに明るい青春小説。



まだまだあります！

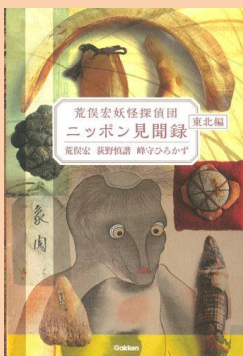


Next本 紹介

次はこれ読んで

『荒俣宏妖怪探偵団 ニッポン見聞録』東北編 荒俣 宏／著、荻野 慎諧／著、 峰守 ひろかず／著 学研プラス

博識な荒俣宏さんが、あの「遠野物語」で有名な遠野など、妖怪伝承の伝わる東北を巡ります。河童って私たちの知るあの、姿かたちだけではないのです！妖怪について理解を深めることもできるし、著者たちの妖怪への熱意も感じることができます。



『Twinkle-ひかりもの』
香月 日輪／著、後藤 みわこ／著、
ひこ・田中／著、寮 美千子／著、
令丈 ヒロ子／著 ポプラ社

いろんな「熱い本」を読んでみたけれど、次に何を読もうかな？と悩んでいる人におすすめ。

5人の作家さんの短編がぎゅっとつまった1冊です。気に入った話があれば、同じ作家さんの別の本を探してみるのはどうでしょう？



『ガリガリ君ができるまで』 岩貞 るみこ／文、黒須 高嶺／絵 講談社

ガリガリ君といえば、定番のソーダ味から、ちょっと変わった限定の味まで、いろんな種類がありますよね。この本を読めば、新しい味のガリガリ君がどのように作られ、私たちのものに届くのかがよくわかります。商品開発の人たちの、ガリガリ君へそぐ情熱をぜひ感じてみてください。



これを読んだら

Next

次はこれ!!

『THE BOOKS green』
ミシマ社／編
ミシマ社

『舟を編む』

三浦 しをん／著 光文社

主人公の馬蹄（まじめ）は、名前の通りまじめな性格。新しい辞書の完成に向けて、こつこつと取り組んでいくお話ですので、あっと驚く展開や、ラストに向けてのどんでん返しなどはありません。けれど、一つの辞書ができるまでに、多くの人が関わっていて、たくさんの熱い思いが込められていることがわかる一冊です。



自分で本を探してみたいけど、どうやって探せばいいかわからない。そんなあなたにおすすめの一冊。365店の本屋さんから、各書店員さんが1冊ずつ選んだ、365冊の本が紹介されているガイドブックです。あなたにピッタリの、あなただけの「熱い本」をぜひ探してみてください。

THE BOOKS green
EDITED BY MISHIMASHA



365人の書店員さん
が選んだ365冊の本が
ここに集まる

